





・両親より受継いだ自分自身の身体の可能性を信じ、健康な若い 身体を取り戻すことを目指します。

弊社の推薦する幹細胞治療の特長

免疫拒絶の無い自己細胞を使う。

身体に極力負担のかからない採取方法を使う。

若い時に形成される脂肪細胞由来の幹細胞を使う。

免疫調整作用・抗炎症作用に特に優れた機能を持つ細胞を使う。

脂肪由来幹細胞投与で効果が期待できる 疾病(主な症状)

- 慢性疼痛 (原因不明の痛みで落ち込む・動きがおっくうになる・起き上がれない)
- 糖尿病 (疲労感・手足の感覚が低下する・チクチク指すような痛みがある・頻尿・目がかすむ・性機能障害・切り傷やその他の皮膚の傷が治りにくい・空腹感やのどの渇きがひどくなる)
- アルツハイマー病 (記憶障害・言語や動作の障害、人格の変化、見当識障害、暴力・不適切な行動)
- 脊髄損傷 (麻痺・運動・知覚の障害)
- 心不全 (むくみ・急激な体重の増加・坂道・階段での息切れ・前かがみ呼吸困難・夜間の呼吸困難や咳)
- **肝硬変** (代償期での治療が肝心・食欲不振・全身倦怠感)
- 間質性肺炎 (労作時(ろうさじ:運動時・階段・入浴等)の息切れ・空咳)
- 肺気腫 (咳(せき)、痰(たん)、動いた際の息切。)







- ・主な間葉系幹細胞 (MSC)
 - ・脂肪由来
 - ・皮膚由来
 - ・骨髄由来
- ・ 間葉系幹細胞とは、ヒトが持つ幹細胞のひとつの種類でMSC (ASC)と呼ばれている。
- ・今まで、MSCは、脂肪・骨・軟骨に分化できる細胞と定義されていたが、研究の結果肝細胞、神経細胞など多様な細胞へ分化することが分かってきた。
- ・MSCは、骨髄や脂肪、皮膚など全身の様々な場所に存在し。弊社推薦の各クリニックでは 一番採りやすく、負担のかからない部位でのMSCとして腹部の脂肪細胞を利用する。
- ・弊社では脂肪由来幹細胞の培養の研究を進め、より効果の高い細胞の培養法を培養施設に提供し、各クリニックでは高品質な自己細胞を利用して治療をする。





- 最新の研究では成人の体内の脂肪細胞数は、小児期から青年期に決まり、成人になってからはほとんど変化しない。
- ・老化により細胞の代謝回転率が落ちることは明白で、代謝回転率を上げることは抗加齢効果があると考えられる。
- ・通常、脂肪幹細胞は代謝回転率を上げ易い。
- ・脂肪幹細胞を取り出し、体外で培養を行い、数を増やして、戻すことにより、代謝回転率を向上させ、全身に良い結果を与える可能性があると考えられる。
- ・脂肪細胞の代謝回転率の向上は、糖尿病を始め、数々の疾病の 病態改善に役立と考えられる。





- ・細胞治療の投与方法は現在、静脈点滴・局所注入に限られている、自己上清液治療は静脈点滴・経鼻・経口・敬肺・経皮・点眼と多くの投与方法があり、患部への直接効果が期待されるのと共に在宅治療が可能。
- ・即効性が期待される。
- ・病態に応じて投与量を容易に変更し効果測定が出しやすい。
- ・細胞治療の優位点と組み合わせて、より良い再生医療を受けるができる。
- ・細胞治療の約半分の期間で治療を受けることができる。
- ・-80℃での保存が可能。

自己上清液治療

- ・細胞治療と並んで上清液治療が有望と考える。
- ・効果の対象は細胞治療と同等。
- ・ 弊社では上清液も自己由来が良いと考えている。

比較表

細胞は体幹性細胞	自家細胞	自己上清	他家上清
免疫拒絶	なし	なし	不明(僅少)
適用可能な組織	間葉系細胞	多	多
ドナー間差	-	-	不明
大量製造	不適	不適	適
製造期間	2か月	1か月	即
製造コスト	高い	中程度	安い
即効性	無	有	有
持続性	長	短	短



実際の治療の手順(推薦クリニックでの例)

•患者側(時間例)

- ・脂肪採取時間の1時間前に来院
- •問診票記入(10分)
- •問診(10分~)
- 着替え・トイレ等(5分)
- ・採取室に移動・血液採取・細胞採取(15分)
- •休憩(回復)(20分)
- ・帰宅



推薦クリニック

「未来図みなとクリニック」

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町74-1

大和地所ビル 2階

TEL:045-305-6878

Mail:miaizuminato@gmail.com

